

2016年7月1～3日四日市東日本大震災支援の会 第34回派遣 熊本災害ボランティア 活動報告

2016年7月4日
四日市東日本大震災支援の会
代表 鬼頭浩文(四日市大学教員)

九州で大規模な災害が発生し、尊い命が犠牲になり、多くの方が家を失って不自由な避難生活を強いられています。西原村では、6月20日現在で、500名以上の方が5つの避難所で生活し、60人以上の方が車中泊の避難生活をされています。ようやく便利な場所に仮設住宅の用地が確保され、6月18日には50世帯が仮設住宅のカギを受け取り、引っ越しを始めます。残りの約250世帯も、7月には引っ越しが予定されています。支援の会では、西原村内の世帯を対象に、現地の大学生が作成したフリーペーパー（生活情報などを掲載）を配布しながら、生活の困りごとや悩み事を聴いてまわるボランティア活動をしました。

費用負担

18,000円（学生スタッフと、第33回東北ボラに参加した学生；2,000円）

★食事は各自負担（1日目の昼食のみ支給）。

★宿泊；菊池温泉「望月旅館」電話 0968-25-2185

参加者

四日市大学学生6名、四日市看護医療大学学生5名、四日市大学教員1名、
消防士ボランティア3名、社協ボランティア3名

<スケジュール概要>マイクロバス使用

★7月1日（金）

21：00 四日市大学出発（四日市大学バス停裏の職員駐車場）

★7月2日（土）

8：30～16：00 ボランティア⇒ 望月旅館 入浴&宿泊（夕朝食は各自負担）

★7月3日（日）

8：30～12：00 ボランティア⇒ 熊本IC近くの銭湯入浴⇒ 帰路 ⇒ 翌4日午前2時頃帰着

